

I

(1) 語彙力にくわえて、品詞、文章の構造、文脈を正確に把握できているかを確認する問題である。下線部の第1文は、1行目のアインシュタインの発言の要点を説明するものだが、“point”を動詞として理解しているものや、“the most”を適切に訳出していない解答が少なかつた。その一方で、“some of”の部分には工夫がみられ、文脈を把握していることが確認できた。第2文は強調構文だが、“their ideas rather than their technical ability”において、「科学者の発想」と「科学者の技術的能力」との対比が正確に訳出されていることが重要である。

(2) 文の主語“it”は前文の内容を指し、“that”以下は“reminder”が想起させる内容を説明する。これを“it”が“that”以下を意味するいわゆる形式主語の構文と取り違えている答案が非常に多かつた。前文の内容自体は下線部に含まれていないので、「それ」「そのこと」という訳語は、減点の対象とはしていない。

II

日本語の文章の意味を適切に把握しているか、標準的な英語の文法を用いて訳されているか、適切な語彙を用いた自然な英語になっているか、英文の句読法やスペリングが正しいかが主たるポイントである。解答の際には、文章全体で書かれていることは何かを理解し、下線部が全体とどのような関係にあるかを考えた上で、英語で表現するとよい。

他者の心情を推し量ったり、実際に起きたこととは異なる状況に関する想定を英語に訳する問題である。「惜しかった」や「後悔するのだろうか」、「…すればよかった」「いや、できない」のような表現の英訳に苦心・工夫がみられた。一方、直接話法・間接話法と代名詞の使用に混乱が見られるもの、形容詞や副詞とそれが修飾する語句との位置関係が不適切なものもあり、一貫した視点と正しい文法関係を意識して文を作ることが求められる。また、基本的な不規則動詞の過去形の間違い、“bird”や“regret”の誤綴りも散見された。

III

1. ほとんどの答案は、質問の意図として求めていた、正しい部分（最後の段落の“When a salt craving fits...”からの二文）の内容を記していた。栄養素の間違いや野菜の名前の過ちなどは、大きな減点の対象とはしていない。解答対象部分の前後を含むことは必ずしも誤りとはならないが、しょっぱいものに対する渴望と空腹の違いや筆者が摂取せよと勧めているものと、しょっぱいものへの渴望の関係が正しく理解できていないもののがかなりの数見られた。

2. 下線部に続く文章で述べられていることの内容を把握し、本文に即して日本語で分かりやすく具体的に説明することを求める問題である。まず下線部の“quite unlike”を正しく理解する必要がある。“salt tooth”と“sweet tooth”の似ているところでなく、似ていないところに重点を置いて説明するべきである。“the more of it you need to get the same satisfaction from it”が正確に解釈できていない答案が少なくなかった。

3. 下線(3)が含まれる段落の内容を理解し、下線が引かれている文について、文脈に応じて適切に和訳することが必要である。“the perceived saltiness”について、本文中で意図されている「感じられる塩味（塩味の感じ方）」ではなく、「塩の摂取量」として訳出する解答がみられた。この訳出にともない、直後にくる“go down”についても塩味の感じ方が「下がる、低下する」と訳すところを、塩の摂取量を「下げる、減らす」と訳出する解答が目立った。単語レベルでは、“sauce”を別の単語である“source”と勘違いし、「源、元」と訳す解答や、“tongue”の意味を把握できていない解答もみられた。

4. 本文の文脈を理解し、下線部の文の構造を把握したうえで、適切に和訳することが求められる。(i) “is found” “processed and high-fat foods”の意味を適切に理解しているか、(ii) “, which”と表された関係代名詞の用法を理解し、先行詞を適切に把握しているか、(iii) “with”の用法と意味を適切に理解しているか、(iv) “that”以下の関係節の意味を適切に理解しているか、が主なポイントである。